

# ベースロード市場 2020年度第1回、第2回オークション 取引結果について

2020年11月27日

資源エネルギー庁

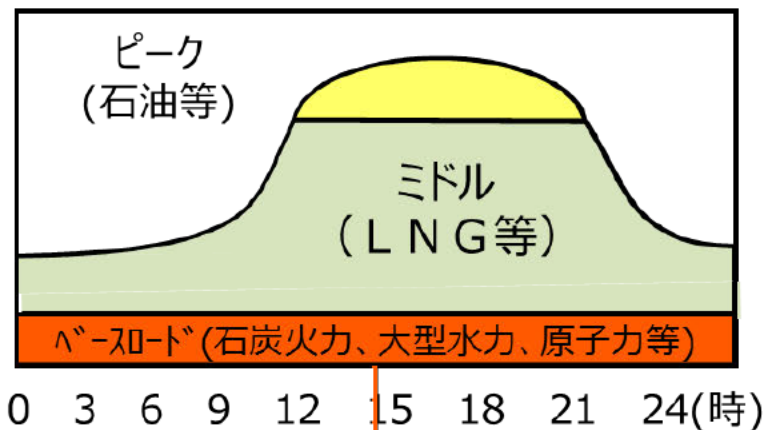
# はじめに

- 旧一般電気事業者と新電力のベースロード電源へのアクセス環境のイコールフィッティングを図り、更なる小売競争の活性化を図る仕組みとしてベースロード市場（以下「BL市場」という。）を創設し、2019年7月よりJEPXにおいてオークションが開始された。
- 2020年度に実施された2021年度受渡分の第1回オークション（入札期間：7月21日～7月31日）、第2回オークション（入札期間：9月20日～9月30日）の結果を報告する。

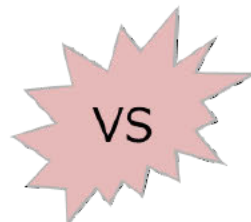
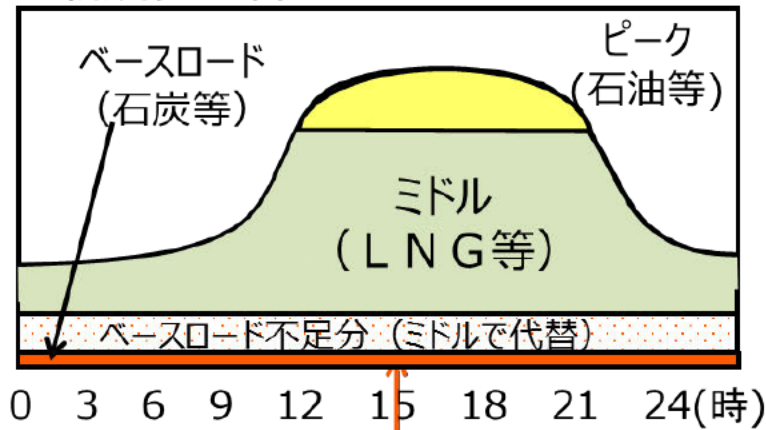
# (参考) ベースロード市場の概要 (1/2)

- 新電力によるベースロード電源へのアクセスを容易にすることを目的とし、日本全体の供給力の約9割弱を占める大規模電事業者（旧一般電気事業者・電発）が保有するベースロード電源（石炭火力・大型水力・原子力・地熱）の電気の供出を制度的に求め、新電力が年間固定価格で購入可能とする市場。 ※大規模電事業者以外も同市場で電気を販売可能（任意）
- 大規模電事業者からの供出量合計は、当初は新電力の販売電力量の5割程度。新電力はベース需要の範囲で購入可能。電気の受け渡しはJEPXを通じて行う。  
※新電力シェアが3割になった以降の大規模電事業者の供出量は固定。
- 大規模電事業者からの供出価格には上限価格を設定。電力・ガス取引監視等委員会において、価格の適正性等を監視。
- 2019年7月に初回オークションを実施。年3回（7月、9月、11月）取引を実施。

<旧一般電気事業者>



<新規参入者>



電源供出

ベースロード市場

電源調達

## (参考) ベースロード市場の概要 (2/2)

項目	内容
市場管理者	・日本卸電力取引所 (JEPX)
主な取引主体	・売入札：旧一般電気事業者、電源開発 (新電力の売入札も制限されていない) ・買入札：新電力 (旧一般電気事業者の自エリアが含まれる市場以外での買入札も制限されていない)
オークション方式	・シングルプライスオークション ・受渡し年度の前年度に、年3回 (7月、9月、11月) オークションを実施
商品の形態	・電力量 (kWh) を取引 ・燃調等のオプションを具備しない受渡期間1年の商品 (受渡し開始は4月)
市場範囲	・①北海道エリア、②東北・東京エリア、③西エリアの3つ (市場分断状況を踏まえ設定)
精算方法	・商品の受渡しは、現行の先渡市場と同様、スポット市場を介して実施 ・3つのエリア毎に基準エリアプライスを設定し、基準エリアプライスと買い手のエリアのエリアプライスの値差が生じる場合に精算
買い手の取引要件	・各事業者のベース需要を基とした事前要件 (各社の購入枠を設定するなどして、実需を上回る購入を行うことができないような措置を講じる) と事後要件 (転売制限の設定など行い、実需を上回る購入があった場合に事後的に何らかの措置を講じる) を設定
売り手の取引要件	・市場への供出価格について、大規模発電事業者は、グループ内の小売部門に対する自己のベースロード電源の卸供給価格と比して不当に高い水準とならないよう、ベース電源の発電平均コストを基本とした価格で投入。

# 2020年度の第1回及び第2回オークションの約定結果

- 2020年度の第1回オークション（取引実施日：7月31日）、第2回オークション（取引実施日：9月30日）（2021年度受渡分）の約定処理が行われた。
- 全国での約定量は、**2回のオークションの合計：219.7MW**（第1回：111.1MW、第2回：108.6MW）であり、**年間の電力量に換算すると約19.2億kWhであった。**これは2019年度の販売電力量8,632億kWhの0.22%に相当する

※2019年度オークションの年間約定量は、約46.8億kWhであり、2019年度の販売電力量の0.56%に相当。

	第1回オークション		第2回オークション		商品エリア合計
	約定量 (年間換算量)	約定価格	約定量 (年間換算量)	約定価格	約定量 (年間換算量)
北海道	4.9MW (0.4億kWh)	8.63円/kWh	4.1MW (0.4億kWh)	9.09円/kWh	9.0MW (0.8億kWh)
東京・東北	50.7MW (4.4億kWh)	7.52円/kWh	19.5MW (1.7億kWh)	7.65円/kWh	70.2MW (6.1億kWh)
西日本	55.5MW (4.9億kWh)	6.50円/kWh	85.0MW (7.4億kWh)	6.06円/kWh	140.5MW (12.3億kWh)
オークション 合計	111.1MW (9.7億kWh)	—	108.6MW (9.5億kWh)	—	219.7MW (19.2億kWh)

## 2019年度オークションとの比較

- 2回オークションの**約定量合計約219.7MW（約19.2億kWh）**を、2019年度の第1回、第2回オークション合計と比較すると、**約82%**の約定量となっている。
- また、2019年度の常時バックアップの調達量約21億kWhと比較すると、その**約91%**に相当する。

商品エリア	オークション	2019年度		2020年度		前年度約定量対比 ※1年間の電力量にて比較
		約定量 [MW]	約定量 [億kWh]	約定量 [MW]	約定量 [億kWh]	
北海道	1回目	12.7	1.1	4.9	0.4	36%
	2回目	2.2	0.2	4.1	0.4	200%
東京・東北	1回目	88.2	7.7	50.7	4.4	57%
	2回目	26.8	2.3	19.5	1.7	74%
西日本	1回目	83.4	7.3	55.5	4.9	67%
	2回目	53.2	4.7	85.0	7.4	157%
合計	1+2回目	266.5	23.3	219.7	19.2	82%

# 監視結果

- 電力・ガス取引監視等委員会による監視の結果、第1回、第2回オークションともに、各大規模発電事業者の市場供出量は、いずれもBL市場ガイドラインで定める投入電力量を満たしていたことが確認されている。
- また、各大規模発電事業者は、供出上限価格をBL市場ガイドラインに沿った方法で設定し、それ以下の価格で市場への供出を行っていたことが確認されている。
- 加えて、第1回、第2回ともに、買い入札量は売り入札量を相当程度下回っていたことが確認されている。

## 【第1回オークション監視結果】

News Release

経済産業省  
Ministry of Economy, Trade and Industry

令和2年9月28日

電力・ガス取引監視等委員会  
Electricity and Gas Trading Monitoring Commission

2021年度分ベースロード取引市場(第1回オークション)に係る監視について

電力・ガス取引監視等委員会は、本年7月に日本卸電力取引所において実施された2021年度分ベースロード取引市場(第1回オークション)について「ベースロード市場ガイドライン(以下、「ガイドライン」という。)」に基づき、供出量、供出上限価格の観点から問題となる行為がなかったかどうかについて監視を行いました。  
本日、第1回オークションに関する最終結果を取りまとめましたので、以下の通り公表します。

〔2〕第1回オークションの監視結果

- 電力・ガス取引監視等委員会において、各大規模発電事業者の供出状況について詳細な分析を行うとともに、各事業者からその考え方を聴取すること等により、ガイドラインに基づく取組がなされていたかどうか確認したところ、以下の通りであった。
- 各大規模発電事業者のベースロード市場における供出量は、いずれもガイドラインで定める投入電力量を満たしており、問題となる事例は認められなかった。
- 各大規模発電事業者のベースロード市場における供出上限価格は、いずれもガイドラインに沿った方法で設定し、それ以下の価格で市場への供出を行っており、問題となる事例は認められなかった。

## 【第2回オークション監視結果】

News Release

経済産業省  
Ministry of Economy, Trade and Industry

令和2年11月18日

電力・ガス取引監視等委員会  
Electricity and Gas Trading Monitoring Commission

2021年度分ベースロード取引市場(第2回オークション)に係る監視について

電力・ガス取引監視等委員会は、本年9月に日本卸電力取引所において実施された2021年度分ベースロード取引市場(第2回オークション)について「ベースロード市場ガイドライン(以下、「ガイドライン」という。)」に基づき、供出量、供出上限価格の観点から問題となる行為がなかったかどうかについて監視を行いました。  
本日、第2回オークションに関する最終結果を取りまとめましたので、以下の通り公表します。

〔2〕第2回オークションの監視結果

- 電力・ガス取引監視等委員会において、各大規模発電事業者の供出状況について詳細な分析を行うとともに、各事業者からその考え方を聴取すること等により、ガイドラインに基づく取組がなされていたかどうか確認したところ、以下の通りであった。
- 各大規模発電事業者のベースロード市場における供出量は、いずれもガイドラインで定める投入電力量を満たしており、問題となる事例は認められなかった。
- 各大規模発電事業者のベースロード市場における供出上限価格は、いずれもガイドラインに沿った方法で設定し、それ以下の価格で市場への供出を行っており、問題となる事例は認められなかった。

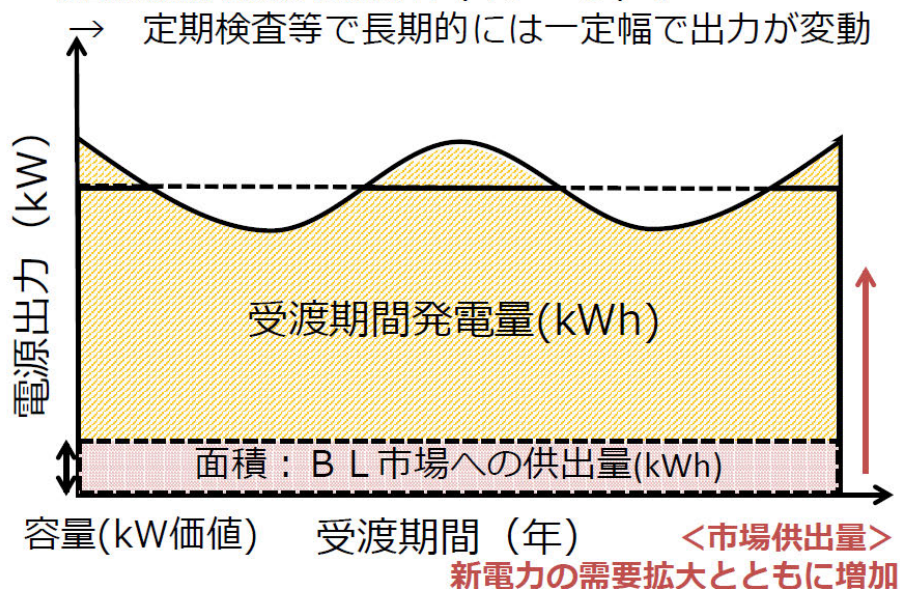
出所：「2021年度分ベースロード取引市場に係る監視結果について」(電力・ガス取引監視等委員会)

# (参考) 供出上限価格の算定式

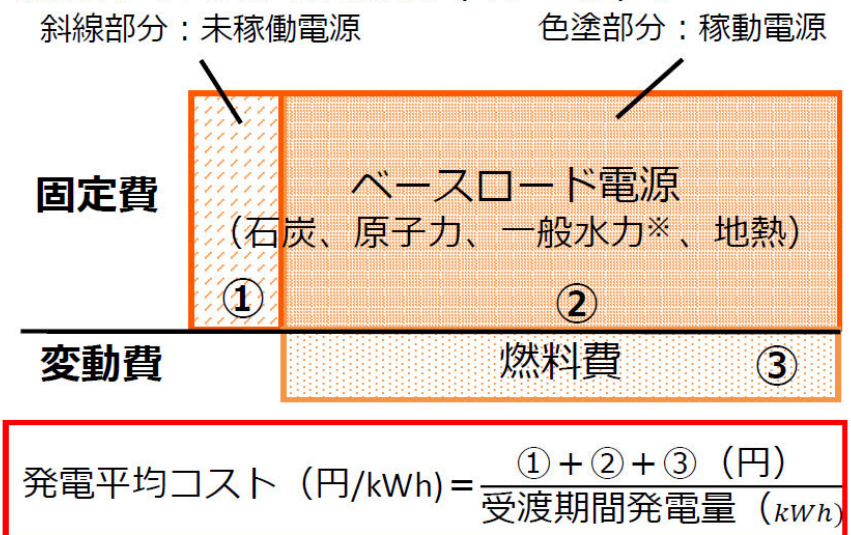
## 論点⑧、⑨:対象電源、供出上限価格

- 貫徹小委において、BL市場に供出する電源種は、売り手・買い手の双方の利便性を損ねない観点等から限定しないことが適当とされたが、これは、制度的措置に基づき供出を求められる事業者も同じではないか。
- 他方で、BL市場の実効性を高める観点から、ベースロード電源の発電平均コストから、容量市場での収入を控除等し、供出上限価格を設定するとともに、同価格以下で供出することを各事業者に求めてはどうか。
- 発電平均コストについては、具体的には、小売事業者間のイコールフットィングにも留意しつつ、保有するベースロード電源の①受渡期間における運転計画や、②石炭等の燃料費調達費用、③設備維持費等を踏まえ、同電源を維持・運転する費用(円)を年間発電量(kWh)で割り戻して算定することとしてはどうか。

【電源稼働状況と発電量 (イメージ)】



【発電平均コスト算出方法 (イメージ)】



※ 一般水力については、ベースロード電源として活用されている流れ込み式水力のみを原則算定対象することを検討 (詳細後述)



# 約定価格の比較

- 各エリアの約定価格と基準エリア（北海道、東京、関西）の各オークション直近月までの1年間の平均エリアプライスと比較すると、おおむね同水準もしくは下回る水準で取引が行われている。
- 2回のオークションともに、2019年度の約定価格と比較しても、下回る水準で取引が行われている。

## 【第1回オークション】

商品エリア	約定価格 (円/kWh)	基準エリアの直近月※1までの 平均エリアプライス (円/kWh)
北海道	8.63	9.63
東京・東北	7.52	8.29
西	6.50	6.47

※1 2019年7月1日～2020年6月30日での基準エリアの平均エリアプライス

## 【第2回オークション】

商品エリア	約定価格 (円/kWh)	基準エリアの直近月※2までの 平均エリアプライス (円/kWh)
北海道	9.09	8.76
東京・東北	7.65	7.55
西	6.06	6.12

※2 2019年9月1日～2020年8月31日での基準エリアの平均エリアプライス

## 【2019年度オークション】

2019年度オークション約定価格 (全3回の平均) (円/kWh)
12.43
9.71
8.62

## 今後のスケジュール

- 2020年度オークションは、11月に第3回が実施される。
  - (第3回) 入札期間：2020年11月20日～30日、取引実施日：11月30日